

マスコミ各位

平成30年10月17日（水）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、仁平

電 話：098-866-2215

風しん患者の発生状況について

1 報道関係者の方へ

県内の風しん患者の発生状況については、平成30年10月10日までに2名の患者が確認されていることをお知らせしていますが、その後、10月16日までに新たに2名の患者が確認されました。患者情報の詳細は、「2 患者情報」の通りです。

4名の患者のうち3名は、県内での感染が推定されています。風しんは、感染しても症状が分かりづらいことから、県内には潜在的な感染者が存在する可能性があります。これら感染者からの感染拡大に加え、首都圏を中心とした風しん流行が継続していることから、県外から風しんウイルスが持ち込まれる可能性も危惧されます。今後の感染拡大防止のため、以下の点について、県民への注意喚起を宜しくお願い致します。

なお、当面の間、県内で新たに風しん患者が報告された場合は、週に1回、国立感染症研究所の風疹急増に関する緊急情報が更新された翌日を目安に、プレスリリースを行う予定です。

- 風しんに感染しないためには、予防接種が重要です。風しんの定期予防接種対象（第1期：1歳になってから2歳になるまで、第2期：小学校に入学する前の1年間）の方は、早めに予防接種（MR ワクチン）を受けましょう。
- 妊婦は予防接種が受けられません。風しんに対する免疫が不十分、あるいは不明な妊娠初期の方は、なるべく人混みを避けるとともに、風しん流行地への訪問予定のある方は訪問延期をご検討ください。
- 妊娠を希望される方や妊婦の同居者（夫、子どもなど）で、ワクチン接種歴が1回以下の方は、かかりつけ医に相談し、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。
- 30代から50代の男性は、風しんの免疫が不十分な世代と言われています。この世代の方は、抗体検査や予防接種について積極的にご検討ください。
- 風しん患者の感染経路は飛沫感染及び接触感染です。常日頃から、手洗いや咳エチケットなどの感染防止対策を実施して下さい。

- 発熱や発疹等の症状から風しんが疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。また受診の際は、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

2 患者情報

患者 No.	年齢	性別	居住地	予防接種歴	発熱日	発疹出現日	検査確認日	推定感染源	備考
1	40代	男性	那覇市	不明	10/3	10/4	10/7	不明	
2	40代	女性	宜野湾市	不明	10/2	10/3	10/9	県内	
3	20代	女性	那覇市	無	10/8	10/7	10/12	県内	
4	40代	男性	那覇市	不明	無	10/8	10/12	県内	医療機関の検査で確認

感染症法の趣旨に則り、患者やその家族・関係者について、本人等が特定されないことがないように、格段のご配慮をお願いします。

なお、全国の風しん患者数は、平成30年第1～40週までに1,103名の患者が報告され、第39週までの累積報告数から151名増加しています。主な報告地域は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県です。

3 予防接種関連情報

平成30年10月16日時点での県内卸業者における、MRワクチンの在庫は、約2,900本が確認されています。

県内の予防接種実施医療機関については、沖縄県医師会並びに各地区医師会のホームページ等をご参照ください。なお、予防接種を希望される場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、MRワクチンの接種が可能か確認の上、予約をし、受診をお願いします。

4 医療関係者の皆様へのお願い

医療関係者におかれましても予防接種歴の確認をしていただき、未接種者はワクチン接種を検討してください。加えて、院内での感染防止対策の徹底を宜しくお願いします。

また、風しんを疑った、もしくは診断した際には、管轄保健所へ報告を行うとともに、接触者の確認や、感染拡大防止の対応をお願い致します。

5 風しんについて

原 因：風しんウイルス

潜伏期間：14～21 日（平均 16～18 日）

周囲への感染可能期間：発疹が出る 7 日前から 7 日後まで

主な症状：潜伏期間の経過後、発熱、発疹、リンパ節腫脹（ことに耳介後部、後頭部、頸部）が出現するが、発熱は風しん患者の約半数にみられる程度。また症状の現れない不顕性感染が、15～30%程度存在する。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊婦が妊娠初期(約 20 週まで)に感染すると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風疹症候群」になり、目や耳、心臓に障害を持つ可能性がある。

感染経路：飛沫感染、接触感染

感染症法：五類感染症

予 防：予防接種が有効

6 参考

国立感染症研究所ホームページ：風疹急増に関する緊急情報(2018 年)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>

厚生労働省ホームページ：風しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kan-senshou/rubella/

厚生労働省ホームページ：風しんの感染予防の普及・啓発事業

（「なぜ大切？風しんワクチン」に、生年月日による風しんワクチン接種状況が掲載されています）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kan-senshou/rubella/vaccination/

従業員の皆様へ

自分自身だけでなく、家族と一緒に働く方を風しんからまもるために、下記の対策をご検討ください。

1 妊娠を希望する女性は…

妊娠前に風しんの抗体検査をご検討ください。

※抗体価が低い場合は、予防接種を検討しましょう。

2 妊娠中の女性は…

ご家族の方に風しんの抗体検査を検討して貰ってください。

※抗体価が低い場合は、予防接種を検討しましょう。

※妊婦は風しんの予防接種を受けることができません。妊娠中で予防接種を受けられない場合には、人混みを避けるなど、風しんにかかっている可能性のある人との接触は可能な限り避けてください。

3 働く皆様方は…

体調不良の時はムリしない

※風しんの感染拡大を防ぐためには、他人にうつさないことが大切です。

※体調がすぐれない場合には、無理して外出しないようにしましょう。

※どうしても外出が必要な場合には、咳エチケットを徹底しましょう。

※風しんを疑う症状(発熱、発疹など)が出現した際は、医師に相談しましょう。

あなたの職場は

風しん予防対策をしていますか？

今、風しんにかかる患者のうち、働く年齢層の方が多くなっています。

最も心配なのは、妊婦を経由して、赤ちゃんが先天性風しん症候群になることです。

事業者の皆様へ

健康で安心な職場の環境整備のため、下記の対策をご検討ください。

1

従業員が**抗体検査**や**予防接種**のために**医療機関**などの受診を希望した場合には、ご配慮ください。

2

入社時などに、**予防接種の記録**の確認を本人に呼びかけるようにしてください。

3

職場での感染予防のため、**風しんにかかった人の休暇**についてご配慮ください。



職場での風しん予防対策 Q & A

職場での風しん予防対策が、感染拡大の防止にもつながりますので、予防対策へのご協力をお願い致します。

Q.1 なぜ職場で風しん予防対策が必要なの？

A. 働きざかりの人々がかかることが多いから

- ✓ 全風しん患者の約80%が男性。
男性患者の約70%は20～40代と労働人口と重なります。
- ✓ また、女性患者の約60%も20代～30代。

※2017年の国の調査によると、30代～50代の男性の約15%に風しんの免疫が不十分であることがわかっています。

Q.2 妊婦がなぜ風しんにかかるとよくないの？

A. 目や耳などに障害がある赤ちゃんが生まれる可能性があるから

- ✓ 妊娠した女性(とくに妊娠20週頃まで)が風しんにかかると、耳が聞こえにくくなる、心臓に奇形が生じる、目が見えにくくなるなどの障害(CRS:先天性風しん症候群)がある赤ちゃんが生まれる可能性があります。

Q.3 そもそも風しんってどんな病気？

A. 風邪とよく似ているので、感染に気がつかないことがある

- ✓ 主な症状は発疹、発熱、リンパ節の腫れ(3つの主な症状)。この症状がない人も多く、感染しても症状がでない人は約15～30%程度います。通常は自然に治りますが、まれに脳炎など重症化することがあります。
- ✓ 症状が出る前後の約1週間は、周りの人にうつす可能性があり、ウイルスが感染者の飛まつ(唾液のしぶき)などによって他の人にうつります。

Q.4 風しんかも、と思ったら？

A. 感染拡大を防止のために、他人にうつさないことが大切

- ✓ 体調がすぐれない場合には、無理して外出しないでください。
- ✓ やむを得ず外出する際は、咳エチケットを徹底し、人混みを避けましょう。
- ✓ 風しんを疑う症状(発熱、発疹など)が出現した際には、医師に相談しましょう。

